

— 柏倉恵里子 議員 —

避難訓練の成果をどう活かす

(町長) 防災無線システムの研究を 早急に進めたい

柏倉 10月5日に行われた全町一斉の避難訓練は、1097名の参加があった。実行された事に敬意を表するとともに、問題点も見えてきた。そこで洗い出された問題点は何か。解決策は。また、本年は徒歩を原則としたため、車での混雑は無かったが、車で避難するとうなるかの検証も必要と思うので、次年度も全町一斉避難訓練を実施すべきと考えるが、町長の所信を伺う。

町長 避難訓練時は、町民はじめ各関係機関協力のもと無事終了できたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。

訓練の成果は、主目的とした避難経路の確認、避難に要した時間の把握、防災意識の高揚という点では一定の成果を出すことができたと考える。

一方、消防サイレンやスピーカーの音が聞こえないなど、避難情報の伝達に関する意見があり、早急に整備する必要があると考えている。また、避難する際、隣近所から声をかけられた方は4割程度にとどまる結果も出ている。

防災の基本は「自助」「共助」「公助」だが、情報伝達におけるハード面を補完し、避難の際に最も力を発揮するのは「共助」であり、地域のつながりを深めることが、地域の防災力向上につながると認識している。

今後の防災訓練にあたっては、引き続き町内会などに協力をいただくとともに、全町一斉避難訓練についても効果的な実施時期と方法について検討を進めていく。

柏倉 ハード面を補完とは。

町長 防災対策として計画していたFM放送の開局が、当町の規模では

無理となった。また、渡島管内で防災伝達装置システムがないのは当町だけであり、今後、防災無線システムの研究を進め、早急に決定したい。29年度予算に盛り込むため、現在協議中である。

柏倉 坊主山の避難路に、やはり手すりが必要かと言った。

町長 現在、避難路左側にLED街灯電柱を7基建てる工事をしており、この電柱間に転落防止のネットを張りたい。苦肉の策であるが、これを手すり代わりにしてほしい。

柏倉 大浜のシルバー団地では、3階に逃げれば大丈夫ではないかという声があるが。

町長 緊急時、自分達の命を守るということであれば3階の使用も可能であると伝えた。

柏倉 要援護者も含め自主防災組織を作ってい



手すりが要望される坊主山避難路

ただくよう、連合町内会等に訴えてほしい。

町長 今度、正式に文書でお願いし、連合町内会含め共助に関する組織作りをお願いしていきたい。

柏倉 次年度も避難訓練をやるということではないか。

町長 29年度も実施の方向で検討を進めたい。